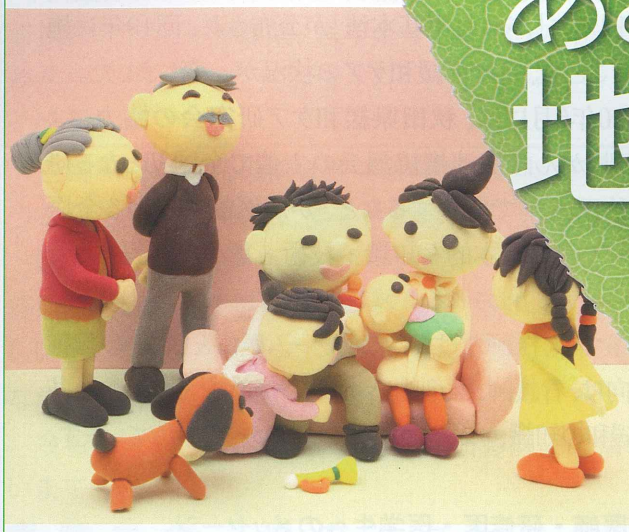

あきたの地域医療通信

2014年3月 第18号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室

市立横手病院の丹羽　誠　院長（外科・がん治療医）に、同病院が一丸となって取り組まれている「緩和ケア」についてお話をお聞きしましたので、御紹介します。

市立横手病院
丹羽　誠　院長

◎緩和ケアについて

時代とともに緩和ケアの概念は変わりました。昔は、ターミナルケアを指し、死を間際とした人、他に治療の手立てが無い人など、治癒の可能性の低い末期患者に対する身体的・精神的苦痛を緩和・軽減するための医療でしたが、今はそれだけではなく、社会的、経済的、スピリチュアルペイン（どうして自分がこの病気になったのか、生きていく意味が無いのではないか）など、患者やその家族の全人的な痛みに対処するため、早期から緩和ケアを受けることが望ましいという考えになっています。実際、標準治療に加え早期から緩和ケアを受けた患者さんはQOL（生活の質）の向上に加え、治療も適切にでき、結果的に生存期間も延長されたという報告もあります。

緩和ケアの大きな2つの柱として、疼痛管理とコミュニケーション技術の進歩があると考えられます。

①疼痛管理の進歩

患者さんに厳しい事実を伝えた上で、患者さんを支えるには、やはり痛みを取り除く必要があります。痛みを取り除く方法の1つにオピオイド（医療用麻薬）が挙げられ、製剤の進歩や安全な使用方法の普及により、以前に比べ格段に使いやすくなりました。

②コミュニケーション技術の進歩

患者さんに、がんという事実を伝えないと、相談も始まらず、治療計画なども立てることができません。しかし、事実を伝えるだけでは患者さんが絶望するかもしれないので、希望を持っていただく必要があります。事実を伝えて支えるということは簡単なことではありません。

いつ・どのタイミングで・どこまで話すか、ということも考えなければならないし、患者さんに伝えた内容が十分でないかもしれません。プライマリーチーム（主治医・担当ナース等）内で、各自が得た情報を共有し、より良い情報を患者さんに提供していく必要があります。そのためには、コミュニケーション技術が重要で、これを習得する研修の機会もあります。

◎緩和ケアチームについて

○チーム発足

当院の緩和ケアチームは、平成14年に発足しました。きっかけは、平成8年に開始した外科病棟での勉強会です。当時は有志による外科のボランティア的な勉強会でしたが、正式な組織となり、病院全体の緩和ケアの質の向上を目指し、プライマリーチームの支援を行います。

緩和ケアチーム

○メンバー構成

当院では、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、MSW（医療ソーシャルワーカー）、事務がメンバーです。

看護師やMSWは、チームの中心となって重要な役割を担っています。看護師は、チーム内の連絡・調整役や、患者さんや御家族の身体的・精神的な辛さなどのサポートを行っています。MSWは、社会的・経済的な悩みの相談から、退院後の療養先、在宅療養に向けた調整など、様々な生活課題をサポートします。

患者さんに対するサポートは、一人一人が単独で行うのは不可能であり、チームのメンバー全員で情報共有し、効果的なケアに取り組んでいくチーム医療がとても大切だと感じます。

○活動内容及び今後の展望

病棟スタッフが作成したリストを基に病棟回診をしています。また、月1回、チームのメンバー全員が揃い、勉強会の相談、個別ケースについて相談するミーティングを開催しています。

緩和ケアチームの活動風景

平成26年4月から、新しい医師も増え、緩和ケアの認定看護師が専従になる予定です。専従の看護師がいることで、より良い医療サービスの提供ができます。今後、当院を始め全国に専従の認定看護師が増えることを期待しています。

◎緩和ケア研修会

平成18年に「がん対策基本法」が公布され、同19年に施行されたことで、日本の緩和ケアの状況が一変しました。

平成20年6月には、秋田県緩和ケア研究会の協力により、秋田県がん診療連携協議会の主催で全国初となる研修会を秋田大学で開催するなど、がん医療に携わる全医師が緩和ケアの基本的な知識・技術・態度を習得するための研修会が開催されるようになりました。

秋田県では、医師だけではなく、チーム医療としての多職種連携に向け、看護師、薬剤師、リハビリ、MSWなどが参加し基本的な緩和の知識、コミュニケーションスキルを習得しています。

◎若手医師・研修医・医学生へのメッセージ

診断時から、「緩和ケア」は「抗癌医療」と共に開始され、医療の基本・土台となります。病気を罹った患者さんの中には「自分はもう駄目かも」と希望を失う方もいます。そのような患者さんへの対応として、ここで学んだことは、がんに限らず、全ての医療の基本となるものです。

緩和ケアチームの一員として医療の質の向上に取り組むとともに、厚労省の緩和ケア研修を受講し、がん治療医としての腕を磨いてください。

最後に、秋田県から秋田県緩和ケア研究会に委託された『緩和ケア実地研修事業』では、ホスピス、緩和ケアチーム、在宅診療など、現場での研修ができますので、興味のある方は、御参加ください。

秋田県修学資金・研修資金のお知らせ

県では、将来、県内の公的医療機関等において医師として地域医療に従事しようとする医学生、大学院生及び研修医に対し、修学・研修資金を貸与しています。平成26年度の募集については、医師確保対策室あてお問い合わせください。

	医学生修学資金（市町村振興枠）	大学院生修学資金	研修医研修資金
貸与対象者	・医学生 ※公立私立、学年、出身地は問わず。	・大学院生 ※公立私立、学年、出身地は問わず。	・臨床研修医又は専門研修医
貸与額	・月額15万円 （自宅通学者は10万円） ・入学料相当額（1年生に限る）	・月額30万円 ・入学料相当額（1年生に限る）	・月額20万円
貸与期間	・大学卒業まで （最長6年間）	・大学院修了まで （最長4年間）	・研修修了まで （臨床研修は最長2年間、 専門研修は最長3年間）
返還免除要件【勤務先】	・大学卒業後、1年6ヶ月以内に医師免許を取得し、その後直ちに、県内の公的医療機関等に勤務 ・返還免除要件となる勤務期間のうちの半分を、知事が指定する公的医療機関等で勤務 ・知事指定勤務先は、自治体病院・診療所が優先（ただし診療所の勤務にあっては1年を限度とする）	・大学院又は研修終了後、直ちに知事が指定する公的医療機関等に勤務	
返還免除要件【診療科】	・限定なし	・知事が別に定める診療科 （精神科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、産婦人科、麻酔科、（専門研修医のみ）総合診療科）	
返還免除要件【勤務期間】	・貸与期間の1.5倍の期間	・貸与期間と同じ期間	

臨床研修病院合同説明会・意見交換会

平成26年2月10日（月）に秋田大学医学部を会場に、秋田県内の14臨床研修病院に加えて青森県、岩手県からも臨床研修病院が参加し『秋田県臨床研修病院合同説明会』が開催され、147名の秋田大学医学部の学生が参加してくださいました。

各臨床研修病院の指導医・研修医の先生方が、医学生に対し、研修プログラムなど、研修や病院に関する情報を熱心に説明しました。

説明会終了後は、ホテルメトロポリタン秋田に会場を移し、『秋田県臨床研修病院合同意見交換会』が開催され、説明会では聞く事が出来なかった更に詳しい話しを聞くために、多数の医学生も参加し、200名を超えるとても有意義な意見交換会となりました。

今後も様々な説明会で、県内臨床研修病院の情報を提供していきたいと思います。

合同説明会の様子（秋田赤十字病院ブース）

意見交換会の様子

病院見学・県内アクセスサービスのご案内

◇ 秋田県の臨床研修病院への見学を予定している方で、短期間（1日又は2日）で効率的に複数の病院を見学したいという方をサポートします。

◇ 見学希望日と見学希望病院をお知らせいただければ、病院と調整の上、タイムスケジュールを作成します。

◇ 短期間で効率的に複数（より多く）の病院を見学したいが、県内の地理に詳しくない、複数病院との日程調整が大変、などとお考えの方はぜひともご相談ください。

※病院までの交通費・宿泊費は、見学病院の助成（病院の基準額）がありますので、ご相談ください。

イベントカレンダー

開催月日		名　称	対　象	場　所	お問合せ先（団体名／電話／FAX）
4月	19日(土)	新医師歓迎レセプション	研修医	ホテルメトロポリタン秋田	秋田県医師会 TEL:018-833-7401 FAX:018-832-1356
5月	17日(土)	秋田県外科医育成プログラム機構 実技セミナー	医学生 研修医 指導医	秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センター	あきた医師総合支援センター TEL:018-884-6430 FAX:018-884-6457
6月	20日(金)～21日(土)	医師臨床研修指導医ワークショップ	医師 看護師 事務 等	ホテルサンルーラル大潟（大潟村）	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883

秋田県職員医師を募集しています。

秋田県内の自治体病院等で勤務していただける医師を県職員として採用します。

勤務期間は
4年間が1単位

◆ 3年間は県内の自治体病院等に勤務

◆ 残りの1年間は希望する国内外の医療・研修施設において、有給で研修・研究が可能

○ご連絡いただければ、直ちに資料をお送りします。

http://common.pref.akita.lg.jp/ishikakuho/ （あきたの医療情報 みてたんせ） 検索

指導医メッセージ

山本組合総合病院
血液・腎臓内科
道下 吉広 先生

みなさんこんにちは。山本組合総合病院の道下吉広です。

当院は、世界遺産である白神山地や日本海など、自然豊かな能代市にあります。自分自身も釣りが趣味で、休みの日にはよく船で釣りをしています。

当院の研修の特色としては、診療科の垣根を越えた研修があります。例えば、中心静脈カテーテル挿入や腰椎穿刺など、症例がある場合には他科研修中の場合でも気軽に声をかけて、指導医のもと、積極的に研修医に手技を行ってもらうようにしています。

教科書での勉強はいつでもできますが、実際の症例経験はその時しかできません。そのため、貴重な症例はできるだけ研修医に経験してもらうようにしています。当院でこのような取組ができるのは、各診療科間の連携が非常にうまくとれているからです。

もちろん、医療のみならず、能代ならではのバスケや野球、サッカー、テニス、釣り、ゴルフなどのオフ活動も活発です。全職員をあげて、皆さんの研修をバックアップ致しますので、まずは気軽に見学に来て下さい。

研修医メッセージ

市立秋田総合病院
伊藤 史子 先生

当院は秋田市の中核病院の一つで、一般病棟に加え精神病棟と結核病棟を有するという特色を持っています。当院の初期研修医は熱意あふれる指導医とともに、日常診療で多く出会う疾患を幅広く経験でき、研修修了後、どの診療科に進んでも重要となる知識や手技を学ぶための環境が整っています。また、看護師や検査技師の皆さんをはじめとするコメディカルの方々のサポートも非常に充実していて、私たち研修医の成長を後押ししてくれる心強い存在です。さらに、毎週2回のモーニングセミナーや週1回の救急外来カンファレンスを通して、医師として知識を高めるとともに仲間の研修医の経験を共有できるほか、救急救命研修にも力を入れており、外傷や小児救急に関する講習会への受講も奨励されています。このように充実した環境で、医師としての第一歩を踏み出せたことに対して感謝の気持ちを抱くとともに、成熟した医師へと成長できるよう日々の研修を大切にしていきたいです。

男鹿みなと市民病院

〒010-0511 秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り1号8-6
TEL 0185-23-2221(代表)

男鹿みなと市民病院は、平成10年7月に男鹿市立総合病院から男鹿みなと市立病院に名称を変え、マリーナが隣接する現在地に新築移転を行っております。当病院は、秋田県のほぼ中央部に位置する日本海海岸線に突き出した男鹿半島(男鹿国定公園)のほぼ全域と八郎潟干拓地の東部に位置する若美地区で構成される男鹿市唯一の公立病院です。

男鹿市は、四季折々に風光明媚な男鹿半島の自然、食、文化を堪能できるほか、男鹿半島は良好な漁場を抱え、磯釣り、船釣りも楽しめハタハタ漁は冬の風物詩になっており、近くにはゴルフ場もありリフレッシュには恵まれた環境にあります。

特に、平成23年9月に日本ジオパークに認定された男鹿半島・大潟ジオパークには、日本が大陸から分かれ、日本海を形成し、大規模気候変動による環境の移り変わりを経て今日に至った、過去7千万年間の大地の歴史を、ほぼ連続して観察できる地層がそろっています。

当院の病室からは、四季折々の表情を見せる日本海、寒風山をはじめ出羽の山並み、森吉山系が展望でき、自然に恵まれた風景が一望できます。この恵まれた環境の中で、志を共にし、一緒に男鹿市の発展に尽力してくださるスタッフを求めております。ぜひ、「なまはげの故郷 男鹿」にお出でください。

… お問い合わせ先 …
秋田県健康福祉部医務薬事課　医師確保対策室　〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
E-mail：ishikakuho @ pref.akita.lg.jp　Tel. 018－860－1410

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。